

公立高等学校配置計画

(平成23年度～25年度)

平成 2 2 年 9 月

北海道教育委員会

目 次

I 公立高等学校配置計画（平成23年度～25年度）策定の考え方

1 趣旨	1
2 中卒者数の見込み	1
3 基本的考え方	1
4 配置計画（平成23年度～25年度）の概要	2
5 配置計画の変更	3

II 公立高等学校配置計画（平成23年度～25年度）内容

1 中学校卒業生数	4
2 欠員の状況	4
3 定員及び中学校卒業生に対する割合	4
4 配置計画（平成23年度～25年度）の学校別内訳	5
5 中学校卒業生の推計及び推移	10

III 公立高等学校配置計画（平成23年度～25年度）学区別個表

空知南学区	12
空知北学区	13
石狩学区	14
後志学区	16
胆振西学区	17
胆振東学区	18
日高学区	19
渡島学区	20
檜山学区	21
上川南学区	22
上川北学区	23
留萌学区	24
宗谷学区	25
オホーツク中学区	26
オホーツク東学区	27
オホーツク西学区	28
十勝学区	29
釧路学区	30
根室学区	31

I 公立高等学校配置計画（平成23年度～25年度）策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下、「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下、「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な個性、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、平成23年度から25年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成26年度から29年度までの見通しを示したものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、平成23年に48,766人、平成24年に48,773人、平成25年に47,877人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成18年に策定した「新たな高校教育に関する指針」（以下、「新たな指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を実施する。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、次のとおり新しい高校づくり等を推進する。

(1) 地域キャンパス校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域キャンパス校とし、センター校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

(2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を再編にあわせて進める。

(3) 普通科単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(4) フィールド制の導入

普通科の特色づくりとして、まとまりのある分野の科目群をフィールドとして設定し、興味・関心や進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学習することが可能となるフィールド制の導入を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を図る。

(6) 産業キャンパスの活用

職業学科を含めた再編の際にあわせ、産業教育施設や実習地などを有効に活用するため、産業キャンパス化について検討する。

4 配置計画（平成23年度～25年度）の概要

昨年決定した平成23年度及び平成24年度の計画を一部変更するとともに、新たに平成25年度の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 平成23年度～24年度（平成21年度決定）高校配置計画の変更

全日制課程

ア 学級増減

平成22年度の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ、1学級減を行った浜頓別高校、佐呂間高校、湧別高校、上士幌高校及び町立霧多布高校について、平成23年度にそれぞれ1学級の増を行う。

イ 職業学科の学科転換

地域の状況及び生徒の進路動向、地域からの要望などを考慮し、平成23年度に留萌千望高校において、「建設科」を「電気・建築科」に学科転換を行う。

ウ 中高一貫教育

連携型中高一貫教育を導入している長万部高校について、平成23年度から1学年1学級となることから、平成24年度末で連携型中高一貫教育を終了する。

エ その他

平成24年度に浦河高校及び様似高校の再編により設置する新設校の学科等については、地元ニーズ等を踏まえ、幅広い進路希望に対応できる総合学科とする。

(3) 平成25年度高校配置計画

全日制課程

ア 学級増減

各通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、2校で2学級の増を行うとともに、6校で6学級の減を行う。

イ 再編整備

札幌市において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、札幌篠路高校及び札幌拓北高校において再編整備を実施する。

なお、再編後の新設校の学級数については、8学級とする。

また、中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率、通学区域における同一学科の設置状況などを総合的に勘案し、赤平高校及び戸井高校を募集停止とする。

ウ 普通科単位制の導入

生徒の学校選択幅を拡大するため、札幌東陵高校、札幌篠路高校及び札幌拓北高校を再編した新設校並びに富良野高校に導入する。

エ 地域キャンパス校の導入

今後の中卒者数の状況などを考慮し、平成25年度から新たに阿寒高校を地域キャンパス校とする。

オ 総合学科の設置

生徒の幅広い進路希望に対応した特色ある学校づくりを推進するため、札幌厚別高校に新たに設置する。

5 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、通学区域における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合。
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が新たな指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合。
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合。

4 配置計画（平成23年度～25年度）の学校別内訳

◎ 平成22年度入学者選抜における第2次募集後の学級減

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 2	空 知 南	道	栗 山	全	普 通	4	3	-1	4学級→3学級
	後 志	道	俱 知 安	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
	檜 山	道	江 差	全	普 通	4	3	-1	4学級→3学級
	上 川 北	道	士 別 翔 雲	全	普 通	4	3	-1	5学級→4学級
	宗 谷	道	浜 頓 別	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	オホーツク中	道	留 辺 薬	全	綜 合	3	2	-1	3学級→2学級
		道	佐 呂 間	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	十 勝	道	上 士 幌	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
釧 路	町	霧 多 布	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級	
計			10校					-10 (-400)	

◎ 平成23～25年度高校配置計画／全日制課程

(1) 学級増減

① 学級増(学校名の前の※印は、平成21年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 3	宗 谷	道	※浜 頓 別	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	オホーツク中	道	※佐 呂 間	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	オホーツク西	道	※湧 別	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	十 勝	道	※上 士 幌	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	釧 路	町	※霧 多 布	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	(小計)		5校					+5	
H 2 4	-								
H 2 5	石 狩	道	札幌厚別	全	普 通 合	6	0	-6	6学級→7学級
		道	札幌手稲区新設校	全	普 通	0	7	+7	7学級→8学級
	(小計)		2校						+2
計			7校					+7 (+280)	

* H 2 5 の札幌手稲区新設校は、札幌稲西、札幌稲北の再編により H 2 3 に新設する高校。

(2) 学級減

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 3	空 知 北	道	滝川工業	全	土 木	1	0	-1	3学級→2学級
	石 狩	道	札幌南陵	全	普 通	8	6	-2	8学級→6学級
		道	札幌厚別	全	普 通	8	6	-2	8学級→6学級
		道	札幌真栄	全	普 通	8	6	-2	8学級→6学級
		道	札幌篠路	全	普 通	8	7	-1	8学級→7学級
		道	札幌拓北	全	普 通	8	7	-1	8学級→7学級
		道	札幌白陵	全	普 通	6	4	-2	6学級→4学級
		道	江 別	全	普 通	6	5	-1	9学級→8学級
		道	野 幌	全	普 通	9	8	-1	9学級→8学級
		道	大 麻	全	普 通	9	8	-1	9学級→8学級
道	北 広 島	全	普 通	9	8	-1	9学級→8学級		

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 3	後 志	道	小樽商業	全	商 業	2	1	-1	4学級→3学級
		道	小樽工業	全	情報技術	1	0	-1	4学級→3学級
	胆 振 西	道	伊 達	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
		道	函 館 西	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
	渡 島	道	函 館 稜 北	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
		道	長 万 部	全	商 業	1	0	-1	2学級→1学級
		道	旭 川 東 栄	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
	上 川 南	道	富 良 野	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
		道	留 萌 千 望	全	電気システム	1	0	-1	3学級→2学級
	釧 路	道	釧 路 湖 陵	全	普 通	6	5	-1	7学級→6学級
		道	釧 路 江 南	全	普 通	7	6	-1	7学級→6学級
		道	釧 路 商 業	全	情報処理	2	1	-1	6学級→5学級
		道	釧 路 工 業	全	土 木	2	1	-1	7学級→6学級
		道	釧 路 東	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
根 室	道	根 室 西	全	普 通	3	2	-1	3学級→2学級	
	(小計)		26校				-30		
H 2 4	釧 路	道	阿 寒	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	(小計)		1校				-1		
H 2 5	空 知 南	道	岩 見 沢 東	全	普 通	6	5	-1	6学級→5学級
		道	室 蘭 清 水 丘	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
	胆 振 西	道	虻 田	全	商 業	2	1	-1	2学級→1学級
		道	北 見 緑 陵	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
	十 勝	道	帯 広 緑 陽	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
		道	新 得	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	(小計)		6校				-6		
計			33校				-37 (-1,480)		

(2) 再編整備

① 再編統合(学科名の前の※印は、平成21年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 3	空 知 南	道	美 唄 (母 体 校)	全	普 通	2	0	-2	5学級→0学級
				全	情報ビジネス	1	0	-1	
				全	食品システム	1	0	-1	
				全	生活デザイン	1	0	-1	
		道	美 唄 工 業	全	電子機械	1	0	-1	2学級→0学級
				全	電気システム	1	0	-1	
	道	新 設 校	全	総 合	0	5	+5	0学級→5学級	
	石 狩	道	札 幌 稲 西	全	普 通	7	0	-7	7学級→0学級
		道	札 幌 稲 北 (母 校)	全	普 通	7	0	-7	7学級→0学級
道		札 幌 手 稲 区 新 設 校	全	普 通	0	7	+7	0学級→7学級	

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H23	宗 谷	道	稚内(母体校)	全	普 通	4	0	-4	5学級→0学級
				全	衛生看護	1	0	-1	
		道	稚内商工	全	機 械	1	0	-1	2学級→0学級
				全	商 業	1	0	-1	
		道	新 設 校	全	普 通	0	4	+4	0学級→6学級
				全	商 業	0	1	+1	
	全			衛生看護	0	1	+1		
	オホーツク中	道	美 幌	全	普 通	2	0	-2	2学級→0学級
				全	生活科学	1	0	-1	
		道	美幌農業(母体校)	全	農業科学	1	0	-1	3学級→0学級
				全	食品科学	1	0	-1	
				全	普 通	0	2	+2	
道		新 設 校	全	生産環境科学	0	1	+1	0学級→4学級	
	全		地域資源応用	0	1	+1			
(小計)		再編に伴う募停校8校、再編統合による新設校4校						-11 (33学級の減、新設校で22学級の増)	
H24	日 高	道	浦河(母体校)	全	普 通	4	0	-4	4学級→0学級
		道	様 似	全	商 業	1	0	-1	1学級→0学級
		道	新 設 校	全	※総 合	0	4	+4	0学級→4学級
	(小計)		再編に伴う募停校2校、再編統合による新設校1校						-1 (5学級の減、新設校で4学級の増)
H25	石 狩	道	札幌篠路(母体校)	全	普 通	7	0	-7	7学級→0学級
		道	札幌拓北	全	普 通	7	0	-7	7学級→0学級
		道	札幌北区新設校	全	普 通	0	8	+8	0学級→8学級
	(小計)		再編に伴う募停校2校、再編統合による新設校1校						-6 (14学級の減、新設校で8学級の増)
計		再編に伴う募停校12校 再編統合校6校						-18 (-720)	

*再編に伴う新設校は(母体校)と表示した校舎を活用する。

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H23	檜 山	町	瀬 棚 商 業	全	情報ビジネス	1	0	-1	1学級→0学級
	上 川 北	道	中 川 商 業	全	商 業	1	0	-1	1学級→0学級
	(小計)		2校						-2
H24	-								
H25	空 知 北	道	赤 平	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
	渡 島	道	戸 井	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
	(小計)		2校						-2
計		4校						-4 (-160)	

(3) 地域キャンパス校の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数	センター校	備 考
H 2 3						—		
H 2 4						—		
H 2 5	釧 路 道		阿 寒	全	普 通	1	釧路湖陵	—
	(小計)		1校				1校	
計			1校				1校	

(4) 総合学科の設置(学校名の前の※印は、平成21年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	備 考
H 2 3	空 知 南 道		新 設 校	全	5	美唄・美唄工業の再編
	(小計)		1校			
H 2 4	日 高 道		※新 設 校	全	4	浦河・様似の再編
	(小計)		1校			
H 2 5	石 狩 道		札 幌 厚 別	全	7	普通科から総合学科に転換
	(小計)		1校			
計			3校			

(5) 普通科単位制の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	備 考
H 2 3	石 狩 道		札 幌 白 陵	全	4	
			北 広 島	全	8	
	後 志 道		小 樽 桜 陽	全	6	
		オホーツク西 道		遠 軽	全	5
	(小計)		4校			
H 2 4	石 狩 道		大 麻	全	8	
	(小計)		1校			
H 2 5	石 狩 道		札 幌 東 陵	全	8	
			札 幌 北 区 新 設 校	全	8	札幌篠路・札幌拓北の再編
	上 川 南 道		富 良 野	全	4	
	(小計)		3校			
計			8校			

(6) フィールド制の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	備 考
H 2 3	石 狩 道		札 幌 手 稲 区 新 設 校	全	7	札幌稲西・札幌稲北の再編
			千 歳 北 陽	全	8	
(小計)			2校			
H 2 4					—	
H 2 5					—	
計			2校			

(7) 職業学科の学科転換（再編によるものを除く）（学校名の前の※印は、平成21年度に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	備 考
						実施前	実施後		
H 2 3	留 萌	道	※留萌千望	全	建設科	1	0	-1	
					電気・建築科	0	1	+1	
	(小計)		1校						
H 2 4	-								
H 2 5	-								
	計		1校						

◎ 平成23～25年度高校配置計画／定時制課程

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	学 科 (学科名は小学科)	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 3	後 志	道	小樽潮陵	定	普通	1	1	±0	1学級(2校の定時制課程を再編)
			小樽商業	定	商業	1	0	-1	1学級→0学級
	(小計)		1校					-1	
H 2 4	-								
H 2 5	-								
	計		1校					-1 (-40)	

5 中学校卒業者の推計及び推移

中学校卒業者推計表（22年推計）

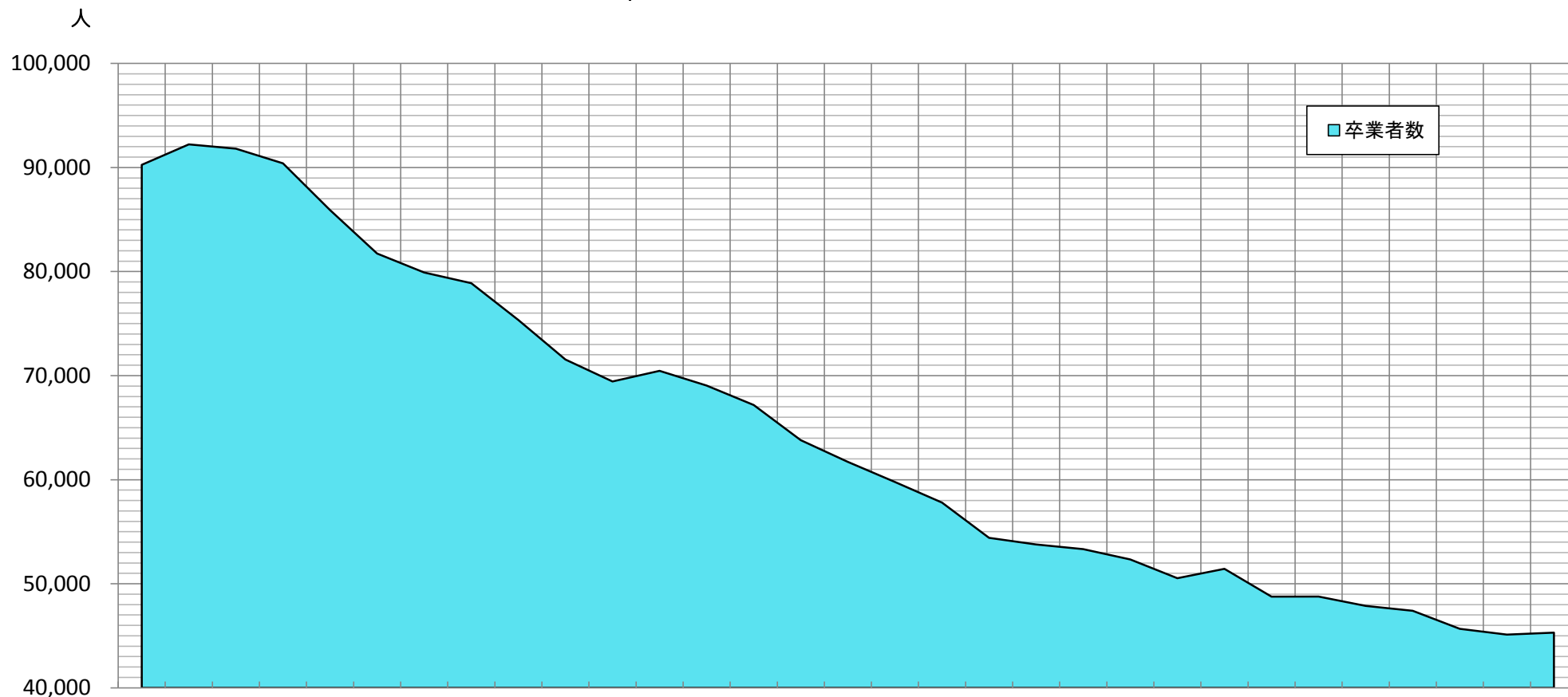
	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
空知南	1,597	1,602 +5	1,516 ▲86	1,481 ▲35	1,476 ▲5	1,359 ▲117	1,281 ▲78	1,245 ▲36
空知北	1,410	1,292 ▲118	1,220 ▲72	1,213 ▲7	1,191 ▲22	1,177 ▲14	1,142 ▲35	1,144 +2
石狩	21,985	20,696 ▲1,289	20,843 +147	20,655 ▲188	20,428 ▲227	19,751 ▲677	19,641 ▲110	19,823 +182
後志	2,030	1,873 ▲157	1,872 ▲1	1,914 +42	1,793 ▲121	1,694 ▲99	1,676 ▲18	1,699 +23
胆振西	1,746	1,681 ▲65	1,732 +51	1,602 ▲130	1,663 +61	1,626 ▲37	1,547 ▲79	1,636 +89
胆振東	1,988	2,029 +41	1,964 ▲65	1,939 ▲25	1,893 ▲46	1,894 +1	1,817 ▲77	1,860 +43
日高	768	709 ▲59	684 ▲25	684 ±0	646 ▲38	575 ▲71	644 +69	588 ▲56
渡島	3,961	3,832 ▲129	3,830 ▲2	3,792 ▲38	3,659 ▲133	3,586 ▲73	3,442 ▲144	3,309 ▲133
檜山	373	341 ▲32	364 +23	346 ▲18	322 ▲24	302 ▲20	306 +4	308 +2
上川南	4,078	3,937 ▲141	3,947 +10	3,819 ▲128	3,882 +63	3,872 ▲10	3,762 ▲110	3,846 +84
上川北	616	586 ▲30	607 +21	584 ▲23	588 +4	533 ▲55	500 ▲33	570 +70
留萌	464	420 ▲44	403 ▲17	408 +5	389 ▲19	362 ▲27	346 ▲16	344 ▲2
宗谷	633	564 ▲69	616 +52	533 ▲83	565 +32	546 ▲19	550 +4	550 ±0
オホーツク中	1,566	1,544 ▲22	1,512 ▲32	1,513 +1	1,436 ▲77	1,420 ▲16	1,374 ▲46	1,350 ▲24
オホーツク東	645	614 ▲31	576 ▲38	631 +55	594 ▲37	566 ▲28	596 +30	548 ▲48
オホーツク西	620	603 ▲17	603 ±0	637 +34	593 ▲44	529 ▲64	568 +39	528 ▲40
十勝	3,496	3,375 ▲121	3,441 +66	3,166 ▲275	3,417 +251	3,190 ▲227	3,184 ▲6	3,110 ▲74
釧路	2,585	2,260 ▲325	2,229 ▲31	2,174 ▲55	2,108 ▲66	1,981 ▲127	2,000 +19	2,048 +48
根室	876	808 ▲68	814 +6	786 ▲28	763 ▲23	710 ▲53	742 +32	800 +58
合計	51,437	48,766 ▲2,671	48,773 +7	47,877 ▲896	47,406 ▲471	45,673 ▲1,733	45,118 ▲555	45,306 +188

※中学校卒業者数は、平成22年5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※平成22年は実数、平成23年以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者の推移 (昭和62年～平成29年)

(注) 1 昭和62年3月～平成22年3月は実卒業生数である。
 2 平成23年3月～平成29年3月は学校基本調査（平成22年5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
卒業生数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,766	48,773	47,877	47,406	45,673	45,118	45,306
増減	1,298	1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	1,021	-1,415	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	900	-2,671	7	-896	-471	-1,733	-555	188

空知北学区高校配置計画

区 分	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H29-H22	
学区内中卒者数	1,410	1,292	1,220	1,213	1,191	1,177	1,142	1,144	▲ 266	
対前年増減		▲ 118	▲ 72	▲ 7	▲ 22	▲ 14	▲ 35	+ 2		
滝川市中卒者数	(416)	(382)	(384)	(359)	(362)	(356)	(347)	(344)	▲ 72	
対前年増減		▲ 34	+ 2	▲ 25	+ 3	▲ 6	▲ 9	▲ 3		
学校名	平成22年度の状況 学科及び募集学級数				平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26～29年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計	H22 欠員						
滝 川	6		6	0				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○滝川市内において、市立高校を含めた高校配置のあり方について検討が必要		
滝川工業		工 3	3	31	工▲1					
*滝川西	3	商 4	7	5						
単 砂 川	4		4	-1						
奈井江商業		商 2	2	40						
新十津川農業		農 1	1	-1						
芦 別	4	商 1	5	31						
赤 平	1		1	19			普▲1			
深 川 西	4		4	4						
深 川 東		農・ 商 4	4	31						
10校	22	15	37	159	工▲1		普▲1			